

大草谷津田いきものの里 自然観察会

夏の谷津田はムシ天国

西野孝法（千葉市）

日時：2025年7月20日（日）9時30分～11時00分 天気：晴れ

参加者：15家族32名（大人15名 子ども17名）

担当指導員：西野、相吉、木下、岡田（敬）、伊藤

15家族32名が参加し、たくさんの生き物たちと触れ合った観察会となりました。観察会の構成を、生き物観察（草むら、水辺、樹液）に加え、ムシ遊びとしました。参加者は、捕虫網とたも網を使う二刀流「大草翔平」となって夏の谷津田を楽しみました。

<草むらでの観察>

草むらに行く途中で羽化直後のニイニイゼミを発見、いきなり大盛り上がりとなりました。草むらに着き、網を持って歩きまわるとカマキリ、ショウリョバッタの幼虫が次々と飛び出します。参加者は網を使って捕えるとプラケースに入れて喜びました。網を使うのに慣れている参加者は、コムスジ、アカボシゴマダラなども採集しました。



<水辺での観察>

事前に泥んこのなることを確認していたので思いっきりたも網での採集（ガサガサ）を楽しみました。殆どの参加者が、水辺での採集経験がないため、たも網の使い方、採り方のコツを教えました。参加者は、水辺採集初心者でしたが、網には、小型のゲンゴロウ、ヤゴ、タイコウチ（幼虫）、ドジョウ、エビなど多くの生き物が入りました。普段みることのできない水中の生き物たちに目を輝かせていました。



<樹液に集まるムシの観察>

下見で見つけた樹液が出ているクヌギの木に案内しました。樹液には、カブトムシ、カナブン、スズメバチ、タテハチョウ類が集まっていて、カナブン同士で押し相撲をしていました。カブトムシを見つけると全員が大興奮。「カブトムシの野生の姿を初めて見た」という参加者もいて、採集に挑戦しました。カブトムシは、角と強い足腰で抵抗しましたが、悪戦苦闘の末、採集することができました。歓声が沸き上がりました。



<ムシ遊び>

カナブン（事前に採集済み）にタコ糸をつけてムシ遊びを行いました。カナブンの力強い羽ばたき、前翅を閉じたまま飛ぶ姿、長い飛翔時間に全員の笑顔と驚きがフィールドに広がりました。保護者の方から、遊び方が「とても斬新！」という感想をいただきました。



<まとめ・感想>

熱中症を配慮しながらの開催でしたが、暑さを吹き飛ばすほどの盛り上がりとなりました。「水辺での採集をもっとしたい」という感想に対しては、水辺での生き物観察の機会を増やしたいと思います。参加者が、道具の片づけにも自主的に参加するなど、指導員と参加者が一体となった観察会でした。

